長崎短期大学教育改革に関するアンケート（令和元年度）

送信件数：約1200件　　令和2年8月1日現在

問2

	最も多かった都道府県	長崎県と回答した件数	都道府県無回答	最も多かった市町村	佐世保市と回答した件数	無回答
所在地	長崎県	28	1	佐世保市	13	

【長崎県以外の都道府県】
東京：1　愛知：1　福岡：1

【長崎県内の佐世保市以外の市町村】
長崎市：4　諫早市：4　大村市：3　平戸市：1
五島市：1

問3

	1番多い回答	（回答番号）	無回答数	（"1"と回答した事業所数）
従業員数（正規のみ）	1～29人	1	2	21

問4

	一番多い回答	（回答番号）	無回答数	（"25"と回答した事業所数）
業種	児童福祉事業[保育所]	25	0	15

問5

外国人労働者（留学生）の採用実績・今後の採用の予定の有無について	採用実績		採用の予定	
	有	3	有	5
	無	27	無	20
	未回答	3	未回答	8

外国人労働者の雇用については、様々な業種での取り組みが積極的に開始されている。今回のアンケートの結果においては、数的には未実施の企業が多かったものの、採用実績無しと採用予定無しとの数の開きから、検討されている企業があることも窺い知れる。

問6

			①過去5年間（2016～2020年採用）・短大卒採用数	②過去5年間（2016～2020年採用）・内長崎短期大学からの採用数	③内　2020年4月入社・短大卒採用数	④内　2020年4月入社・内長崎短期大学からの採用数
Q6-1	短大卒採用状況（人数）	栄養士	56	2	23	0
Q6-2		製菓衛生師	5	5	2	0
Q6-3		幼稚園教諭	7	4	7	3
Q6-4		保育士	402	28	61	3
Q6-5		保育教諭	38	14	6	3
Q6-6		介護福祉士	5	1	5	1
Q6-7		一般職・総合職	6	4	1	0

2020年4月採用者にて本学からの採用が無い事業所も多く、今後はより広い就職活動への支援が必要である。

問7

			1位	2位	3位
Q7-1	過去5年採用数の多い短大・専門学校（上位3校）	栄養士	長崎短大	長崎国際大	活水女子大
Q7-2		製菓衛生師　（※専門学校）	長崎短大		
Q7-3		幼稚園教諭	長崎短大	新渡戸文化短大	洗足短大
Q7-4		保育士	長崎短大	長崎女子短大	佐賀女子短大
Q7-5		保育教諭	長崎短大	活水女子大	長崎女子短大
Q7-6		介護福祉士	長崎国際大	九州文化学園	長崎短大
Q7-7		一般職・総合職	長崎短大		

本学卒業生を採用した経験がある企業・事業所からの回答が多いという事がわかる。

問8

			①長短生の割合を増やしたい	②現在と同程度採用したい	③長短生の割合を減らしたい	④今後採用の予定はない
Q8-1	将来　長崎短期大学からの採用について	栄養士	4	5	0	8
Q8-2		製菓衛生師	1	0	0	6
Q8-3		幼稚園教諭	1	2	0	7
Q8-4		保育士	7	11	0	3
Q8-5		保育教諭	3	2	0	4
Q8-6		介護福祉士	3	0	0	6
Q8-7		一般職・総合職	4	3	0	5

現在と同程度、又は本学生の割合を増やしたいという意見が多く、本学卒業生へ一定の評価と、人材不足が顕著であることが読み取ることができる。

問9

		大変優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	大変劣っている
Q9-1	10年前と比較して　長崎短期大学卒業者の勤務上能力	1	5	12	1	0
Q9-2		0	2	15	3	0
Q9-3		1	6	11	2	0
Q9-4		0	4	14	2	0
Q9-5		0	4	14	2	0
Q9-6		1	2	16	1	0
Q9-7		0	3	15	2	0
Q9-8		0	3	15	2	0
Q9-9		0	2	16	2	0
Q9-10		0	4	13	3	0
Q9-11		0	4	13	3	0
Q9-12		0	4	12	3	0
Q9-13		0	6	12	2	0
Q9-14		0	0	18	2	0
Q9-15		0	3	13	4	0
Q9-16		1	4	14	1	0
Q9-17		0	12	7	1	0
Q9-18		0	7	11	2	0
Q9-19		1	6	10	3	0
Q9-20		0	4	12	4	0

【Q9・Q10　共通項目】	
1	学問分野・専門知識や技能
2	幅広い教養・一般常識
3	新しい知識・能力を習得する姿勢
4	目標達成への計画・実行力
5	現状分析と問題点・課題発見力
6	アイディア発想力・解決模索力
7	情報・知識の論理的分析力
8	情報判断とその有効活用力
9	主体性を以て行動する姿勢
10	自身の考えを言葉で伝える力
11	図・数字を用いて表現する力
12	チームの一員として協働する力
13	他者の知識や能力を応用する力
14	複数業務・活動の調整力
15	プレッシャーの中での実力発揮
16	新たな価値や仕事を創造する力
17	社会規範・ルールに従った行動
18	他者の多様性への理解と尊重
19	社会人としての自覚と社会への積極参加
20	外国語能力（読み・書き）
21	その他

全体的には、10年前の卒業者との大きな変化は見られないが、社会規範・ルールに従った行動がやや評価が上がっている。

問10

			1位	2位	3位
Q10-1	在学中に身につけてほしいこと：上位3つ	栄養士	学問分野・専門知識や技能	幅広い教養・一般常識	新しい知識・能力を習得する姿勢
Q10-2		製菓衛生師	新しい知識・能力を習得する姿勢	目標達成への計画・実行力	アイディア発想力・解決模索力
Q10-3		幼稚園教諭	新しい知識・能力を習得する姿勢	新たな価値や仕事を創造する	社会規範・ルールに従った行動
Q10-4		保育士	新しい知識・能力を習得する姿勢	学問分野・専門知識や技能	目標達成への計画・実行力
Q10-5		保育教諭	新しい知識・能力を習得する姿勢	幅広い教養・一般常識	アイディア発想力・解決模索力
Q10-6		介護福祉士	新しい知識・能力を習得する姿勢	主体性を以て行動する姿勢	社会規範・ルールに従った行動
Q10-7		一般職・総合職	アイディア発想力・解決模索力	主体性を以て行動する姿勢	幅広い教養・一般常識

	最も多く選択された番号（1位）	最も多く選択された番号（2位）	最も多く選択された番号（3位）
Q10-1	1	2	3
Q10-2	3	4	6
Q10-3	3	16	17
Q10-4	3	1	4
Q10-5	3	2	6
Q10-6	3	9	17
Q10-7	6	9	2

新しい知識・能力を習得する姿勢が重要であると挙げられた業種が多く、率先して能力獲得に向けた努力ができる人材を求められていることが分かる。

問11

	評価	件数
総じて本学卒業生の印象はどのような評価か	非常に良い	4
	良い	17
	普通	4
	悪い	0
	非常に悪い	1

1件非常に悪いという回答があったため。その要因の確認を行う必要がある。

問12

地域密着型教育について

1）インターンシップ実施の有無

有無	件数
有	18
無	13

※有の場合の実施月

時期	件数
随時	4
6月	2
7～9月	6
10月頃	1
1～2月	1

※有の場合の実施期間

期間	件数
1日	2
2～3日	9
1週間	2
1ヶ月以上	4

インターンシップの実施については、近年様々な業種で行われるようになってきている。もちろん実施の規模についてはそれぞれであるが、希望に応じて期間を設定される企業は増加傾向にある。また、インターンシップ自体は業務体験が大きな目的であるが、採用側はそれらの機会を就職に結びつけることを期待されているところがほとんどである。

（2）地域密着型教育のメリットとして考えられるもの

項目	件数
1　学生の地域志向性向上	7
2　地域の歴史や成り立ちへの理解度上昇	1
3　人と人、つまり学生と地域の方々との接点の発生	6
4　地域の中小企業の魅力（商品・技術・人材）への理解	2
5　地元就職者増加のきっかけ	10
6　地域課題の発見	1
7　既存、または新規の地域課題解決への道筋	1
8　企業・事業所の知名度の上昇	
9　学生の経験値の蓄積	7
10　新たな視点や思考に触れることによる業務の発展	3
11　従業員の指導力向上（メンター制導入）	
12　企業・事業所内での協力体制の強化	
13　福利厚生制度見直しへの契機	
14　固有の技術や知識の継承	
15　教育・体験プログラムの開発	1
16　大学側との連携の強化	2
17　学生自身の社会人基礎力の向上	6
18　社会貢献	2
19　その他	

組織再編による地域共生学科の設置は、地域と大学との接点を設けることによる地域人材育成が目的の大きな柱としてある。採用側の観点からも、地元就職者増加のきっかけを期待する声が大きく、また、学生個人の能力向上についても様々な角度から期待を寄せられていることが見て取れる。